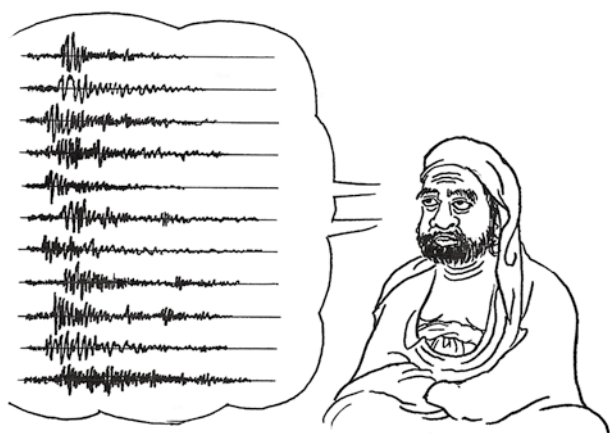


トレンディ 2

— 専門家は禅坊主？ —



(達磨大師)

無心で事実(データ)を観察すれば、地震予知はできる。喝！



工学博士 西尾 宣明

元・東京ガス(株) 基礎技術研究所

事実の集積は科学ではない

大 家 今日はトレンディの話の続きで、禅坊主に似ている地震の専門家の話をしようと思っています。

与太郎 わたしは禅なんてあんまり興味ない人なんですけど、難しい話なんじゃないですか？

大 家 そんなに難しい話じゃありませんよ。

与太郎 それって、この前聞いたランダム…だったけ？

大 家 ランダウですね。

与太郎 あ、そうそう。そのランダウの等級で5級ぐらいの役に立たない学者が多いってことですか？

大 家 そこまで言うつもりはないですよ。

ただ、一つ言えることは、地震計を設置して地震のデータをたくさん集めれば、地震の性質がわかって、地震予知だってできるようになると思っている人が本当に多いということですね。

与太郎 我々素人はデータをいっぱい集めれば地震予知だってできるようになるって言われれば、そういうもんかなあと思っちゃいますよね。

大 家 今から40年も前の1976年にI.K.という若い学者が「東海地震はいつ起きてもおかしくない」という内容の論文を地震学会全国大会で発表したところ、マスコミに大きく取り上げられて、1978年には「大規模地震対策特別措置法」という法律まで作られて、

政府や官庁、それに地震関連学会の主だった人が大地震の兆候が見つかったらいつでもすぐに、対策本部に駆けつけるということになりました。

それから40年。一向に地震が来る気配がないけれども、「予知研究」には予算がつきやすいのを良いことに、みんな挙って地震計をどんどん買い込んで伊豆半島や相模湾に設置したんですね。

与太郎 それで、何かわかったんですか？

大 家 やっぱり予知は難しいことが分かっただけじゃないんですか？

与太郎 へえー、そんなことってありなんですか？

で、大家さんは予知ができるって思っていました？

大 家 ほう、鎌をかけてきましたね。私は早くから竹内均博士(1920～2004)の本を色々読んで、「地震は予知できない。予知よりも被害を少なくするための準備をする方がずっと大切だ」という意見にも共感していましたから、予知ができるなんて全然考えたことがないですよ。

与太郎 竹内博士って偉い人だったんですか？

大 家 日本の地球物理学を引っ張ってきた方で、その業績は国際的にも評価されたすごい人です。

現役を退かれてからは、1981年に科学雑誌の「ニュートン」を出版しました。

与太郎さんも見たことがあるでしょう？